

正誤表

『耳鳴診療ガイドライン 2019年版』第1版第1刷（2019年5月10日発行）、第2刷（2020年5月10日発行）に誤りがございました。下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

2020年10月27日

金原出版株式会社

記

頁	訂正箇所	誤	正
Ⅱ	執筆者一覧 協力執筆者	小島 崇史	小島 敬史

以上

正誤表

『耳鳴診療ガイドライン 2019 年版』第 1 版第 1 刷（2019 年 5 月 10 日発行）に誤りがございました。下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

2020 年 5 月 11 日

金原出版株式会社

記

頁	訂正箇所	誤	正
8	1-2. 聴覚異常感 1 行目	感覚の異常としては共通して障害による感覚閾値の <u>低下</u> が生じるが、	感覚の異常としては共通して障害による感覚閾値の <u>上昇</u> が生じるが、
14	上から 6 行目	聴覚過敏の有無で 2 群に分けた結果では（表 5）、 <u>太字は有意差ありかつ効果量 $d=0.2$ 以上である。聴覚過敏あり群の方は大学病院受診率が高く、</u> (下線部を削除)	聴覚過敏の有無で 2 群に分けた結果では、聴覚過敏あり群の方は大学病院受診率が高く、
16	表 5 1. 受診時年齢 日本	63 <u>(IQR 51 to 72, n=580)</u>	63 [IQR (四分位範囲) 51 to 72, n=580]
16	表 5 1. 受診時年齢 TRI database	<u>53.2 (IQR 44.7 to 62.3, n=1318)</u>	52 (43, 61) (n=1274)
17	表 5 27. 補聴器を使用しているか	<u>(右/左/両/なし)</u>	(いいえ/はい)

以上